

エ 研究委嘱（平成18・19年度埼玉県教育委員会・上尾市教育委員会）
幼稚園・保育所と小学校の連携推進事業

（ア）研究主題

幼・保・小連携による心豊かに生きる子どもの育成

（イ）研究の概要

a 連携推進上のねらい

幼児期から児童期への滑らかな接続を図るため、幼稚園・保育所と小学校の滑らかな接続の在り方、子供・教職員・保護者の連携や交流の在り方について研究する。

b 全体構想

研究主題「幼・保・小連携による心豊かに生きる子どもの育成」の豊かな心の捉え方

相手に対して or 自分に対して

- ・かわいいな、愛くるしいな、うれしいな、楽しいな、上手だな、優しいな、親切だな、頼もしいな、待ち遠しいな等と感じる心
- ・役に立っている、初めての人に声をかけられる等、満足し自信をもてる心
- ・主体的で前向きな心

接続の視点と目指す子ども像

ア 学びの接続

教育課程の接続（伝え合う力を視点に）による学力・学ぶ意欲の向上

<目指す子供像>

- ・相手を受け入れ、相手の話を考えながら聞ける子供たち
- ・相手の立場に立って自分の考えや思いを話せる子供たち

イ 育ちの接続

異年齢交流（行事や教科等の交流体験）によるコミュニケーションを通じた豊かな心の育成

<目指す子供像>

- ・気付く・考える・判断できる子供たち
- ・相手を思いやる心をもった子供たち
- ・コミュニケーションがとれる子供たち

研究の手立て

- 幼・保・小の指導内容や接続の明確化
- 幼保小の子供達の交流活動や授業体験などの計画・実践・評価・反省
- 教職員の交換体験研修
- 保護者、地域との連携を図った行事交流
- 幼・保・小保護者および職員アンケートの実施

研究の成果・課題

c 具体的な取組

- (a) 子供たちに「伝える力」「聞く力」を日常生活でつける。
- (b) 知徳体のバランスをとれた子供を目指した指導の明確化。 **資料16**
- (c) 幼稚園教育要領・保育所指針と小学校学習指導要領との接続の明確化。 **資料17**
- (d) 5歳児における小学校教科に関する指導内容と小学校入門期における指導内容の明確化。 **資料18**
- (e) 年間を通した幼保小交流活動計画・実践・評価・反省。 **資料19**
- (f) 保護者・教職員等にアンケート実施。 **資料20**

(ウ) 成果と課題 (【幼】…平方幼稚園 【小】…平方小)

a 成果

- ①伝え合う力(「話すこと」「聞くこと」)に視点をおいた学力、学ぶ意欲の向上について
 - 幼児は、小学生や小学校教師、地域の人々などたくさんの人と交流したことで、人と関わることの楽しさや優しく受け入れてもらう嬉しさを経験し、相手の話に興味をもって聞こうとしたり、自分の思っていることを友達の前で伝えようとしたりすることができるようになった。また、そのことから、グループで一つの目的に向かって遊ぶ過程で相手の思いを受け入れたり、自分の考えを相手に伝えたりしながら進めることができるようになった。【幼】
 - 自己中心的な発言から、相手の意見を考えた上での発言ができるようになってきた。【小】
 - グループ内の話し合いができるようになった。個人差はあるが、人の話を聞き、自分の意見や感想が言えるようになってきている。【小】
- ②異年齢交流によるコミュニケーションを通した豊かな心の育成について
 - ペアやグループ活動が有効だった。一度名前を覚えた子に対して、特に愛着や親しみを感じていた。【幼】
 - 幼児たちは、小学生の読み聞かせをよく聞いていた。読み方について、声の大きさや本のクイズの内容など、困っている思いを小学生に伝えていた。小学生は、幼児に合う絵本を考え、読みの練習に一生懸命取り組んでいた。幼児の思いを聞いて、読む声の大きさ、速さ、クイズの内容、プレゼントなど工夫していた。【幼】
 - 幼児は、小学生に憧れの気持ちをもったり、小学校入学への心構えをしたりすることができた。【幼】
 - 幼児は、いろいろな学年の児童と交流し、活動を一緒にしたとき、優しく接してもらったり、言葉をかけてもらったりしたことで、親近感や感謝する気持ちが芽生えた。また、自分が優しくされた経験から、年少児にも同じようにしてあげている姿が見られ、思いやりの心が育っていると感じた。【幼】
 - 言葉かけ(どんなことを言えば、喜んでもらえるか)の仕方が分かってきて、気遣いができるようになり、言葉や態度に思いやりが見られるようになった。【小】
 - 幼児に対する心遣いが自分たちでできるようになってきている。自然な形で、お互いに手助けし合う姿も見られた。【小】
 - 目線を合わせて話すことや手をつなぐなどの直接的な交流を通して優しさや思いやりの心が自然に芽生えた。【小】
 - 「いらいらしない」「待ってあげる」「できたら褒めてあげる」「いたわってあげる」など、交流の留意点を子供なりに考えていた。【小】

○親しみをもって積極的に声をかけたり、感謝の心をもったりすることができた。【小】

○年長者として振る舞い、自信や自己肯定感を深めることができた。【小】

③教師の交換体験研修や合同研修会を通して

○合同研修会や交流活動の打ち合わせなどで顔を合わせる機会や一緒に活動することが多くなり、お互いが顔見知りになって、教員同士が親しくなれた。

○お互いの違う立場や教育を理解し、尊重して話し合うことができた。

○保育所や幼稚園の子供たちの生活の様子が分かり、実態を理解することができた。

○保育所、幼稚園共に、子供の成長に大切な直接体験が豊かで素晴らしいと感じた。

○保育所や幼稚園の先生や幼児と接することで、発達段階に応じた指導の必要性を改めて実感できた。

○いろいろな視点で段差が見えてきた。

○授業体験を通して、初めて気付いたことや感じたことを話し合ったり、幼児や児童のそれぞれの発達や育ちについて話し合ったりする機会をもつことができ、幼児期から児童期への発達の理解が深まった。

b 課題

①伝え合う力（「話すこと」「聞くこと」）に視点をおいた学力、学ぶ意欲の向上について

○幼稚園・保育所においては、たくさんの体験や遊びを通して生活を充実させ、感じたり気付いたり考えたりしていく。そして、そのことが基盤になって自分の経験を言葉で表現するようになるので、幼児の学び合いや話合いの場を大切にし、援助していくことが伝え合う力につながっていくであろう。【幼】

○「話すこと」「聞くこと」の場合、学力の向上や達成度が見えづらい。【小】

○とっさの時の受け答えがまだまだ困難である。【小】

②異年齢交流によるコミュニケーションを通じた豊かな心の育成について

○幼児が普段接することの少ない人たちと交流することはとても有意義なことであるため、経験をさせてあげたいと思うが、その計画を入れることによって幼児の生活や遊びの流れが中断してしまうこともあるので十分話合いをしてお互いの理解を図る必要がある。【幼】

○高学年は一回程度の交流で、機会が少なかった。毎年、継続していくことで、経験を積み重ね、豊かな心の育成につなげたい。【小】

③教師の交換体験研修や合同研修会を通して

○幼・保・小の指導内容の接続について、明確にしてきたので、特に、入学前にできている生活習慣やマナーなど、小学校生活につなげたい。

○幼稚園・保育所において育てなければならないことは小学校においても共通していることが改めて分かった。また、幼児期の教育が土台となって小学校へつなげていかなければならないと感じた。そのためには、意図的に教育課程に位置付け、継続していくことが大切である。

○幼稚園・保育所での交換体験の際、事前に小学校の先生方にその日のねらい、幼児の発達の姿、幼児への関わり方などの説明や話合いを十分にしてから保育に入ってもらおうと戸惑うことがなかったのではないかと感じた。